

伊勢物語より「芥川」定期テスト対策練習問題

年	組	番	名前
---	---	---	----

伊勢物語より「芥川」の原文を読んで、問いに答えなさい

昔、男ありけり。
 女のえ①得まじかりけるを、年を②経てaよばひわたりけるを、bからうじて盗み③出でて、いと暗きに来けり。
 ④芥川とcいふ川を⑤率て行きければ、草の上に置きたりける露を、「かれは何ぞ。」となむ、男に問ひける。
 行く先多く、夜も更けにければ、鬼ある所とも知らで、神さへいといみじう鳴り、雨もdいたう降りければ、あばらなる蔵に、女をば奥に押し入れて、男、弓、⑥胡籙を負ひて戸口にeをり、はや夜も明けなむと思ひつつ⑦居たりけるに、鬼、はや一口に食ひてけり。
 「あなや。」と言ひけれど、神鳴る騒ぎに、え聞かざりけり。fやうやう夜も明けゆくに、見れば、率て⑧来し女もなし。
 足ずりをして泣けども、gかひなし。

白玉か何ぞと人の問ひしとき露と答へて消えなましものを

問1 下線①～⑧の読みを、歴史的仮名遣いで書きなさい。

- | | |
|---|---|
| ① | ② |
| ③ | ④ |
| ⑤ | ⑥ |
| ⑦ | ⑧ |



問2 下線a～gを、現代仮名遣いに直して書きなさい。

a

b

c

d

e

f

g

問3 伊勢物語が成立した時代を答えなさい。

問4 伊勢物語の文学的ジャンルを答えなさい。

問5 問4の文学的ジャンルの特徴として、すべての話は何をもとに書かれているか、漢字2文字で答えなさい。

問6 伊勢物語と同じ文学的ジャンルの作品を次の中から選び○でかこみなさい。

ア：平家物語

イ：大和物語

ウ：枕草子

エ：徒然草

問7 伊勢物語の主人公の男のモデルとなった人物の名前を漢字で書きなさい。



問8 次の（ ）に囲まれた助動詞の、「芥川」本文の中で使われている意味をそれぞれ選びなさい。

【助動詞】

ア：女のえ得（まじかり）ける

イ：人の問ひ（し）とき

ウ：消え（な）ましものを

【意味】

①：強意

②：希望

③：過去

④：完了

⑤：打消推量

【ア】

【イ】

【ウ】

問9 次の語句の意味を答えなさい。

ア：え得まじかりける

イ：よばひわたりける

ウ：からうじて

エ：行く先多く

オ：いみじう鳴り

カ：あばらなる蔵

キ：あなや。

ク：え聞かざりけり

ケ：足ずり

コ：かひなし

【ア】

【イ】

【ウ】

【エ】

【オ】

【カ】

【キ】

【ク】

【ケ】

【コ】



問10 「鬼ある所とも知らで」の助詞「で」の「種類」と「意味」をそれぞれ答えなさい。

【種類】

【意味】

問11 「神さへいといみじう鳴り」の助詞「さへ」の「種類」と「意味」をそれぞれ答えなさい。

【種類】

【意味】

問12 本文から「副詞の呼応」を用いた表現をそれぞれ6字以上8字以内で2つ抜き出して書きなさい。

問13 「かれは何ぞ。」とあるが、「かれ」とは何を指すか。本文より11字で抜き出して答えなさい。

問14 「かれは何ぞ。」とあるが、誰が発した言葉か。本文より抜き出して答えなさい。

問15 「かれは何ぞ。」という問いかけに、男が答えなかったのはなぜか、状況を考慮した上で簡単に説明しなさい。

問16 「かれは何ぞ。」という言葉から、女はどのような女であると考えられるか。次の中から最も適したものを選び○でかこみなさい。

ア：逃げていた最中にどうしても良いことを聞く意地悪な性格

イ：何か価値のあるものではないかと思っている、がめつい性格

ウ：あまり世間のことを知らない、身分の高い女性

エ：小さなことにもすぐに気が付く、才能あふれる女性



問17 「あばらなる蔵に、女をば奥に押し入れて」とあるが、男がそのようにした理由として正しくないものを次の中から2つ選び○でかこみなさい。

- ア：夜も更け、雷と雨がひどかったため
- イ：鬼に食われることをさけるため
- ウ：女を奪い返されることをふせぐため
- エ：女の質問に答えるのが面倒だったため

問18 「はや夜も明けなむと思ひつつ」を現代語訳しなさい。

問19 「え聞かざりけり」とあるが、誰が、何を聞くことができなかったのか。本文の言葉を使って簡単に説明しなさい。

問20 「え聞かざりけり」とあるが、なぜ聞くことができなかったのか。簡単に説明しなさい。

問21 「白玉か」の和歌に用いられている縁語を2つ答えなさい。

問22 「白玉」と間違えられたものは、何か。本文および和歌より1字で抜き出して答えなさい。

問23 「白玉か何ぞと人の問ひしとき」の「人」とは誰のことか。本文より抜き出して答えなさい。



問24 「白玉か」の和歌に込められた男の気持ちとして、正しくないものを次の中からすべて選び○でかこみなさい。

ア：女を失って悲しみにくれる気持ち

イ：人を食う鬼を目の当たりにして恐れている気持ち

ウ：女を失った今、いっそのこと消えてしまいたいと思う気持ち

エ：露が何であるかわからなかった自分を恥じる気持ち



伊勢物語「芥川」定期テスト対策練習問題（解答）

- 問1 ① う ② へ
③ い ④ あくたがは
⑤ ゐ ⑥ やなぐひ
⑦ ゐ ⑧ こ

- 問2 a よばい b かろうじて
c いう d いとう
e おり f おり
g かいなし

問3 平安時代

問4 歌物語

問5 和歌

問6 い

【解説】日本の歌物語として代表的な3作品は伊勢物語・平中物語・大和物語であることを覚えておこう。

問7 在原業平



- 問8 アー⑤
 イー③
 ウー①

【解説】

ア：「まじかり」は、打消推量「まじ（終止形）」の連用形。直後に助動詞「けり」が続くため、カリ活用となっている。打消推量とは、「ない」という想像・推測のこと。「打消意思（～たくない）」「不可能（～できない）」「打消当然（～はずがない）」「禁止（～てはいけない）」「打消適当（～ないほうがよい）」のうち、本文の文脈「手に入れられそうにない」を考えると、「打消推量（～ないだろう）」が意味として適している。

イ：「し」は、過去の助動詞「き」の活用。体言「とき」に続くため連体形。直接体験した過去のことなので、「けり」ではなく「き」が使われている。

ウ：終止形「ぬ」は、「強意」「完了」「並列」などの意味がある。「消えてしまえばよかった」という文脈から、「強意」が意味として適している。反実仮想（もし～だったら）の「まし」に接続していることから、「強意」であることがわかる。

- 問9 ア：（例）手に入れられそうもなかった
 イ：（例）求婚し続けた
 ウ：（例）やっこのことで
 エ：（例）目的地までまだ遠く
 オ：（例）ひどく鳴り
 カ：（例）荒れ果てた蔵
 キ：（例）驚きの叫び声
 ク：（例）聞くことができなかった
 ケ：（例）地団駄
 コ：（例）役に立たない

- 問10 種類：接続助詞
 意味：打消接続

【解説】活用する語に接続し、前後をつなぐ働きをするため「接続助詞」である。「で」は未然形に付く打消接続（～ないで）。

- 問11 種類：副助詞
 意味：添加

【解説】「さへ」はさまざまな語につく副助詞。さへの意味は「添加（～までも）」「類推（～でさえ）」「最小限の限定（～だけでも）」。夜が更けて、雨も激しく降り、雷までも・・・という本文の文脈から考えると、「～までも」の添加が意味として適している。



問12 ・え得まじかりける
・え聞かざりけり

問13 草の上に置きたりける露

問14 女

問15 (例) 暗い夜道を急いで逃げていたため、答える余裕がなかった。

問16 う

【解説】草の上におりている露を見たこともないため、女性が問いかけたことを考えると、大切に育てられたため、あまり世間のことを知らない身分の高い女性であることがわかる。

問17 い・お

【解説】男が女を蔵に押し入れた時点では、男はここに鬼が住んでいることを知らなかったため、「い」は正しくない。

問18 早く夜が明けて欲しいと思いながら

問19 (例) 男が、女が驚いて叫ぶ声を聞くことができなかった。

問20 (例) 雷がひどく鳴るやかましさを、声がかき消されたため

問21 露・消ゆ

【解説】和歌の「消え」は、「消ゆ」の活用したものであるため、「消ゆ」と答えるよう注意しよう。

問22 露



問 2 3 女

問 2 4 い・え

